

# 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2023年1月15日

所属： 教育文化 学部 地域文化 学科 国際文化コース 4 年

氏名：加藤陽

派遣先大学名（国）：国立ハンバット大学（韓国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：秋学期

渡航年月日：2022年8月25日

帰国年月日：2022年12月18日

## ○派遣先大学における授業等の履修状況

「キャップストーンデザイン」：毎週月曜日 14時～17時 50分

「学業韓国語2」：毎週火曜日 10時～12時 50分

「韓国のお祭りに関連コンテンツ」：毎週火曜日 14時～16時 50分

## ○研究・学習概要及び今後の勉強計画

まず、学習面についてです。私がハンバット大学で履修した授業は3つです。1つ目に「キャップストーンデザイン」という日本語学科3～4年次の学生が主に履修する授業です。この授業は講義型の授業ではなく、グループでテーマを決めてそれについて探求していく形の授業です。私のグループでは日本風インテリアを基本にして、日本風のインテリアに関心を抱いている韓国人に対して自分たちで日本風のお部屋をデザインアプリで製作して、ブログに挙げることにしました。その過程の中で韓国人がイメージしている日本風が実際の日本のインテリアと異なるなど認識の違いがあったり、お部屋を実際にアプリで製作するのが非常に難しかったりなど様々な苦労がありましたが、最終的に自分達が納得のいくものを制作することが出来て非常に良かったです。また、その中で韓国語の聞き取り能力が非常に上がったことも実感としてありました。2つ目に「学業韓国語2」という韓国語の上級クラスにあたる授業を履修しました。私自身、韓国語の学習に割く時間が留学前にあまりなく韓国語学習の空白がありました。しかし、この授業では担当の先生が難しい内容でも非常に細かく、かつ分かりやすく教えてくれたため空白を感じない位、楽しく授業を履修することが出来ました。3つ目に「韓国のお祭りに関連コンテンツ」の授業では名前の通り、主に韓国のお祭りを学んでいく授業です。私自身、韓国の文化には興味がありましたが、お祭りに対する知識は皆無だったので、授業を通して新たな発見しかなく非常に楽しく授業を履修することが出来ました。韓国での授業で得たものを

直接的に活かす場がこれから沢山はないと思いますが、得たものを少しでも活かせる機会があったら食らいついていきたいと思います。

### ○生活面について

次に生活面についてですが、ハンバット大学の場合は正直、韓国人と交流する機会は多いと思います。理由として日本語学科があるものの、日本人の留学生が非常に少ないため日本人留学生は重宝されます。しかし、親しくなれるかは別の問題であり、自分で話しかけること、また、意見を求められたら自分の意思をしっかりと表示することが非常に大切だと思います。寮や食生活、習慣の違い等は慣れが大きいと思います。日本と違うと思ってもその国にいる以上、受け入れて尊重しながら生活することが大事だと思います。

### ○その他留学全般にわたる感想

最後に留学では楽しい事だけでは正直ありませんでした。しかし、大変な壁にぶつかり、それをどのように突破出来たか、出来なかったかという理由と過程が重要であると私は考えていたので辛くもまず食らいついてました。そして、結果的にそこで得られたことは全て自分の為になりました。勿論、楽しいことも沢山ありました。ここで全てを語ることは不可能ですが、非常に有意義で実りある留學生活を送れて良かったと思っています。



### ○渡航費補助について

「私はコロナ前後で2度の留学を経験しています。コロナウイルスを始めとする様々な要因で物価高騰など留学に行くことを諦めざるを得ない学生も多くいると思います。その中で秋田大学みらい創造基金さんにご支援いただいたことで有意義な留学生活を送ることが出来たと思います。本当にありがとうございました。」